

令和4年度 徳島市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和5年5月
徳島市（徳島県）

○計画期間:令和4年4月～令和9年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和4年度終了時点(令和5年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、令和4年3月24日に認定を受けた徳島市中心市街地活性化基本計画に基づき、「ダイバーシティ」と「イノベーション」をキーコンセプトとして、「街へ行きたくなる場面づくり」、「街を巡りたくなる動線づくり」、「街に住みたくなる空間づくり」の3つの基本方針のもと、「人と人とがつながり、新たな挑戦や投資が生まれる街」を目指して、行政をはじめとした関係者が目指すべきビジョンを共有し、中心市街地の活性化に向けた取組を進めている。

当該計画の認定後、3年ぶりとなる「阿波おどり」の本格開催や中心市街地への出店支援などのソフト事業のほか、JR徳島駅前のアミコビルの再生、県市協調による徳島文化芸術ホール（仮称）の整備に必要な周辺整備、新町西地区における市街地再開発事業などのハード事業を進めている。

アミコビルの再生については、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、着工に遅れが生じたものの、改修が完了したフロアでは新たなキーテナントの営業が開始され、中心市街地の魅力向上と新たなにぎわいの創出につながっており、ランドマーク施設来館者数は増加に転じている。一方で、歩行者通行量や居住者数に関しては、現時点では、事業の効果は表れておらず、いずれも減少傾向のままとなっている。

また、県市協調で進めている新たなランドマーク施設である徳島文化芸術ホール（仮称）の整備については、既存建築物の除去や周辺インフラ整備が進められているほか、市街地再開発事業についても、権利変換計画の認可に向けた手続きが進められており、長年、本市の課題として停滞していた事業が着実に前進し続けている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度1月1日 単位：人)

(中心市街地地域)	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
人口	7,428	7,253				
人口増減数	▲91	▲175				
自然増減数	—	—				
社会増減数	—	—				
転入者数	—	—				

※ 自然増減数、社会増減数、転入者数はシステム上集計不可

(2) 地価(基準日：毎年度1月1日 単位：円/m²)

所在 (用途区分・駅からの距離)	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
中心市街地商業地域平均	216,667	215,667				
一番町3丁目24番 (商業地域・駅前広場隣接)	367,000	366,000				
八百屋町2丁目7番2外 (商業地域・500m)	253,000	252,000				
両国本町1丁目17番 (商業地域・600m)	183,000	182,000				
西船場町2丁目12番 (商業地域・610m)	139,000	138,000				
東大工町3丁目24番 (商業地域・950m)	150,000	149,000				
中洲町1丁目44番外 (商業地域・1,000m)	208,000	207,000				
出来島本町2丁目27番2 (準工業地域・1,000m)	111,000	112,000				
新蔵町2丁目40番 (第二種住居地域・1,200m)	138,000	139,000				

2. 令和4年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

令和4年度は、徳島駅前再生事業によりアミコビルの再生が進んだことや阿波おどり会館の夜の公演が再開したことなどから、ランドマーク施設の来館者数は増加に転じており、今後、ポストコロナに向けて着実に事業を進めることで、活性化への道筋を確かなものとしてもらいたい。

また、未だ減少傾向にある歩行者通行量についても、ランドマーク施設の来館者数が増加したことによって、施設周辺では、一部、増加に転じている地点もあるなど、各事業については概ね順調に進んでいると評価できる。

今後は、外部環境の変化に留意しつつ、本協議会委員から提案のあった、商店街への支援や恒常的なイベントが実施可能な公園整備などのほか、ひょうたん島の水辺空間や県産木材の活用など、本市ならではの魅力を生かした取組みについても積極的に検討を行い、計画を推進してもらいたい。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
来街者数の増加	ランドマーク施設 来館者数	2,441 千人 (R2)	3,741 千人 (R8)	2,869 千人 (R4)	B	—	①
回遊者数の増加	まちなか歩行者通行量 (平日・休日平均)	15,697 人 (R2)	20,807 人 (R8)	14,416 人 (R4)	C	—	①
居住者数の増加	まちなか居住者数	7,546 人 (R2)	7,567 人 (R8)	7,297 人 (R4)	C	—	①

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

「ランドマーク施設来館者数」については、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、令和3年度は基準値を下回る2,229千人にまで落ち込んでいたが、令和4年度は、前年度と比較して、640千人増加の2,869千人（128%）となっており、基準値を上回っている。徳島駅前再生事業によるアミコビルでの新たなキーテナントの営業開始や阿波おどり会館で夜の公演再開など、各事業の進捗はおおむね順調に進んでいることから、継続して事業を進めていくことにより、目標達成は可能であると見込まれる。

「まちなか歩行者通行量（平日・休日平均）」については、令和3年度から令和4年度にかけて、▲919人（▲6%）と減少傾向であるものの、調査地点ごとの値では、ポッポ街や新町橋南東側は増加に転じるなど、一部に改善の状況が見られる。また、ポストコロナに向けて、各種制限の緩和が進んでおり、本市においても、世界に誇る「阿波おどり」が3年ぶりに本格開催されるなど、観光客も含めた人の流れが回復傾向であることから、継続して事業を進めていくことにより、目標達成は可能であると見込まれる。

「まちなか居住者数」については、令和2年から令和3年にかけて▲55人であったものが、令和3年から令和4年にかけては、▲194人と減少幅が大きくなっており、2年連続で基準値を下回っている状態である。新町西地区市街地再開発事業により、住宅供給戸数は増加することが見込まれているが、ハード事業は効果の発現まで年数を要するため、今後、早期の効果発現が期待される移住促進事業をはじめとした、まちなか居住者の増加に寄与するソフト事業の取組を追加・拡充することにより、目標達成は可能であると見込まれる。

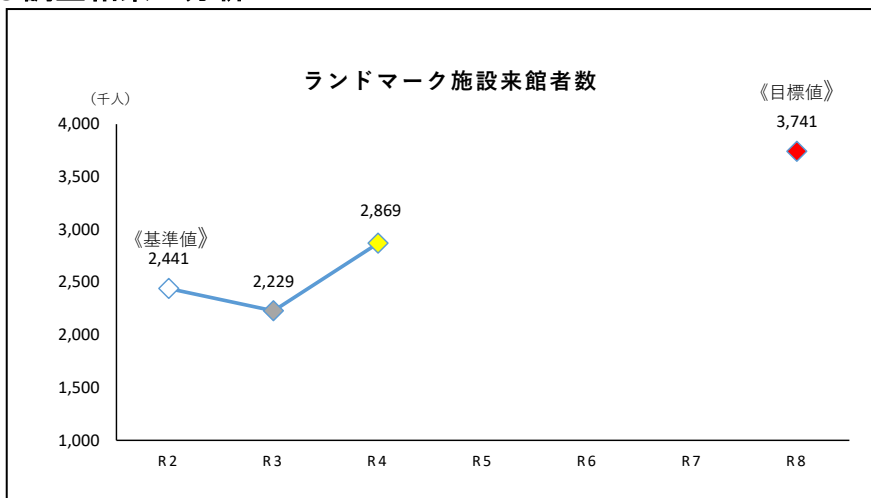
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「ランドマーク施設来館者数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 70～P. 72 参照

●調査結果と分析



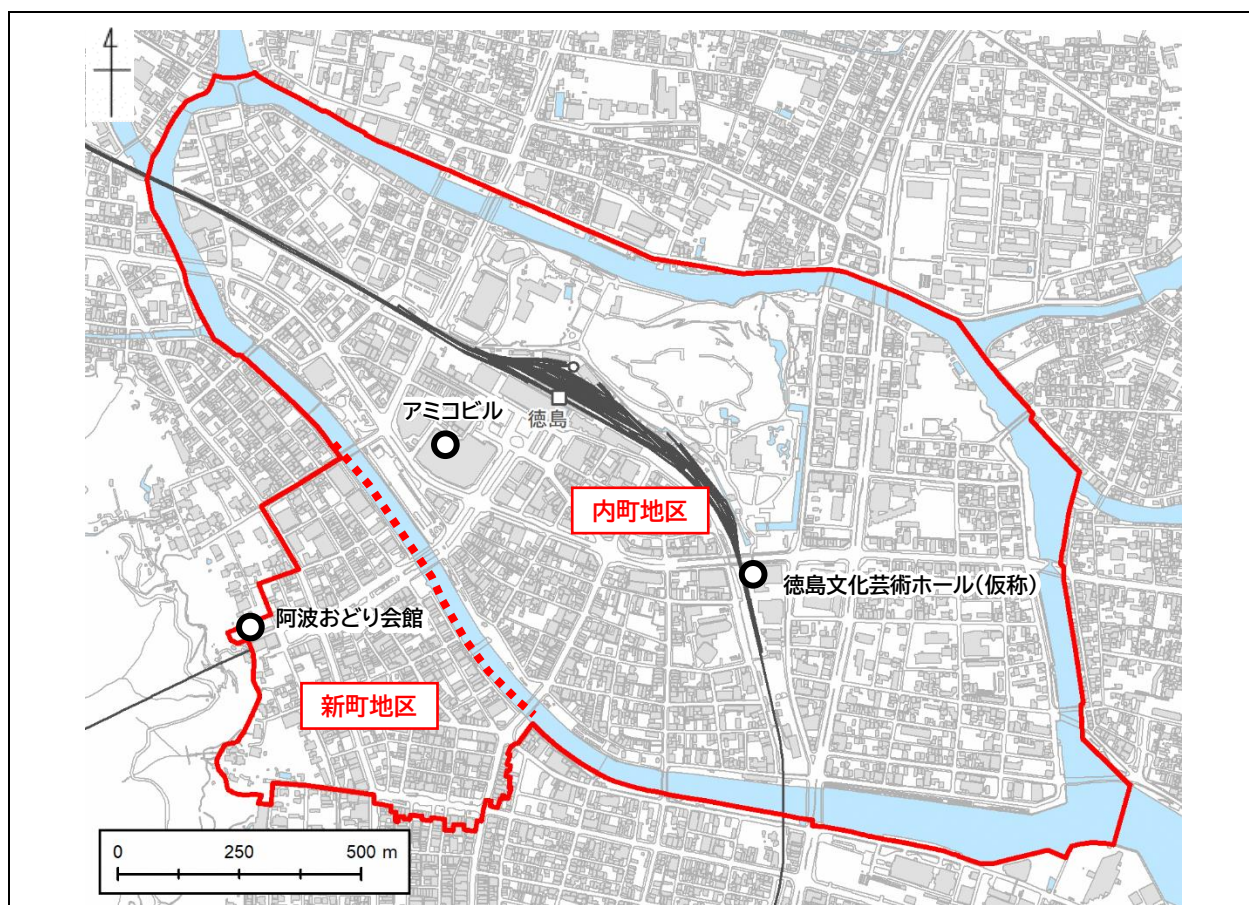
年	(千人)
R2	2,441 (基準年値)
R3	2,229
R4	2,869
R5	
R6	
R7	
R8	3,741 (目標値)

※調査方法：各施設管理者からの報告数値（毎年度末締め）を集計する

※調査月：毎年4月（前年度の合計値）

※調査主体：徳島市

※調査対象：阿波おどり会館、アミコビル及び徳島文化芸術ホール（仮称）の来館者数



※ この地図は徳島市長の承認を得て、1/2500 地形図を複製したものである（承認番号 令3 徳島市指令都政 12号）

(単位：千人)

	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
阿波おどり会館	223	413				
アミコビル	2,006	2,456				
徳島文化芸術ホール(仮称)	—	—				
合計	2,229	2,869				

〈分析内容〉

ランドマーク施設来館者数の増加に寄与する各事業については、おおむね順調に進んでいる。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、基準値を213千人を下回る2,229千人となっていたが、令和3年度から令和4年度にかけては、640千人増加し、基準値を上回る2,869千人(128%)となった。内訳を見ると、阿波おどり会館は190千人増加の413千人(185%)、アミコビルは450千人増加の2,456千人(122%)となっており、阿波おどり会館における夜の公演の再開や、アミコビルへのキーテナント出店などが、ポストコロナに向けて回復傾向にある人の流れをうまく取り込んでいる状況であると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 阿波おどり会館の運営(指定管理者(徳島市))

事業実施期間	平成11年度～【実施中】
事業概要	まちなか観光の拠点となる阿波おどり会館の運営を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【目標値】年間利用者数：657千人 【最新値】年間利用者数：413千人</p> <p>令和4年度においては、コロナ禍で中止していた有名連による夜のおどりを週1回行うなどし、可能な範囲で来館者数を獲得できるよう努めた結果、総入場者数は前年度から190千人増加し、413千人(185%)となった。</p> <p>コロナ前の令和元年度における総入場者数585千人と比較すると、未だコロナの影響下にあることは否めないが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けはじめた令和2年度から令和4年度までの総入場者数の推移については回復傾向にある。</p>
事業の今後について	令和5年度より新指定管理者による運営が開始されることから、これまでより一層の連携を行い、新たなイベントの実施や施設の改修を行うことで来館者の増加を図る。特に、令和5年度以降はインバウンドによる外国人観光客の増加が期待できることや、令和7年度の大阪・関西万博を、阿波おどり会館に来館してもらえる絶好の機会ととらえ、それに向けた施設の整備やイベントの実施等を計画的に行っていく。

②. 徳島駅前再生事業（徳島市）

事業実施期間	令和 2 年度～令和 5 年度【実施中】 [認定基本計画：令和 2 年度～令和 4 年度]
事業概要	JR 徳島駅前のアミコビルについて、テナント誘致に向けた施設改修などに対する補助金を支出する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）（国土交通省）（令和 4 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】年間来館者数：772 千人増加 【最新値】年間来館者数：531.5 千人増加 当該事業で支援しているアミコビル改修は、新型コロナウイルス感染症の影響による建築資材の納期遅延や整備内容の見直し等のため、工事着手が遅れ、令和 5 年度に工事が完了する見込みとなった。 アミコビル年間来館者数は、最新値では 2,456 千人となっており、新型コロナウイルス感染症の影響下においても、改修が完了したフロアでは、新規テナント出店が着実に進んだことから、前年度から大幅に増加しており、目標値を設定した際の見込み（事業目標値）772 千人増加の達成に向け、順調に推移していると考えられる。
事業の今後について	工事の進捗管理に努めるとともに改修工事と並行したテナント誘致を促進させ、令和 5 年春に予定しているグランドオープンに加え、新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行後に回復が見込まれる人の流れを取り込むことで、更なる来館者数の増加を図る。

③. 広域観光案内ステーションの運営（徳島市）

事業実施期間	平成 24 年度～【実施中】
事業概要	アミコビルにおいて、着地型観光の促進を図る拠点となる「広域観光案内ステーション」を運営する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】年間来館者数：30 千人増加 【最新値】年間来館者数：7.5 千人減少 当該事業は、これまでアミコビル地下 1 階で運営を行っていたが、令和 4 年 7 月 31 日に、アミコビル東側外向き 1 階に移転し、まちのインフォメーションとしての機能強化を行った。目標値設定時は、パンフレットを持ち帰っただけの方も来館者数に含めて集計していたが、移転後は、来館者の集計方法を「観光案内・宿泊案内」を行った方のみに変更したため、事業目標値の 45 千人に対し、最新値は 7.5 千人となっているが、「観光案内・宿泊案内」を行った来館者数で比較すると、移転後の来館者数は前年の 4.4 千人を大き

	く上回る7.5千人(170%)となっており、移転により、来館者数は増加していると考えられる。
事業の今後について	アミコビル東側外向き1階という立地を生かし、光で模様を照らしたせるゴボ照明を建物入口に設置することで、夕方や夜間に当ステーションを見つけやすくするとともに新たな観光スポットとなるよう、集客、にぎわいの創出を図る。 また、今後増加が見込まれる外国人観光客に備えて、インバウンド対応の観光案内の工夫をし、広報・周知していくことで外国人観光客の利便性を高める。

④. 徳島文化芸術ホール（仮称）整備事業（徳島県、徳島市）

事業実施期間	令和2年度～令和8年度【実施中】
事業概要	中心市街地のランドマークとなる新たな文化ホールを県市協調により整備するとともに、既存建築物・地下埋設物除却等の土地整備を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）（国土交通省）（令和4年度～令和8年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】年間来館者数：350千人 当該事業は、当初の計画通りに進捗しており、令和8年度中のホール開館を予定している。市と県の役割分担については、県市協調新ホール整備に関する基本協定に基づき進めており、令和4年度については、県はホールの実施設計に着手し、市は徳島跨線橋の撤去、中央公民館及び社会福祉センターの解体及び街路樹管理事務所解体工事設計業務に着手した。
事業の今後について	引き続き、既存建築物の解体やホール整備を進め、新たなランドマーク施設を予定通り開館させることにより、来館者数の増加を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

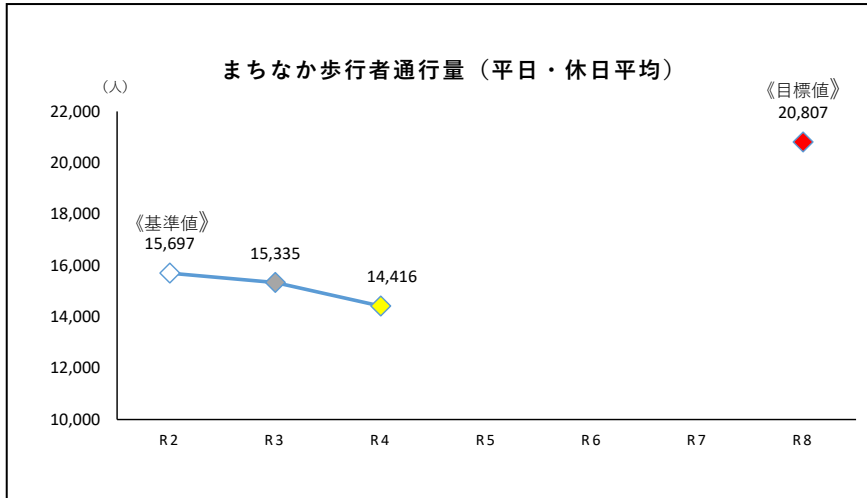
新型コロナウイルス感染症の影響などにより、一部、着工に遅れが生じた事業もあるものの、各事業は概ね順調に進捗しており、ランドマーク施設来館者数も大きく回復していることから、目標の達成は可能であると思われる。

今後は、アミコビルのグランドオープンや阿波おどり会館のインバウンド対応など、ランドマーク施設の更なる魅力向上を図り、ポストコロナ社会へ向けた動きが加速する中、人の流れを着実に取り込むことで、目標達成を目指す。

(2) 「まちなか歩行者通行量（平日・休日平均）」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 74～P. 79 参照

●調査結果と分析



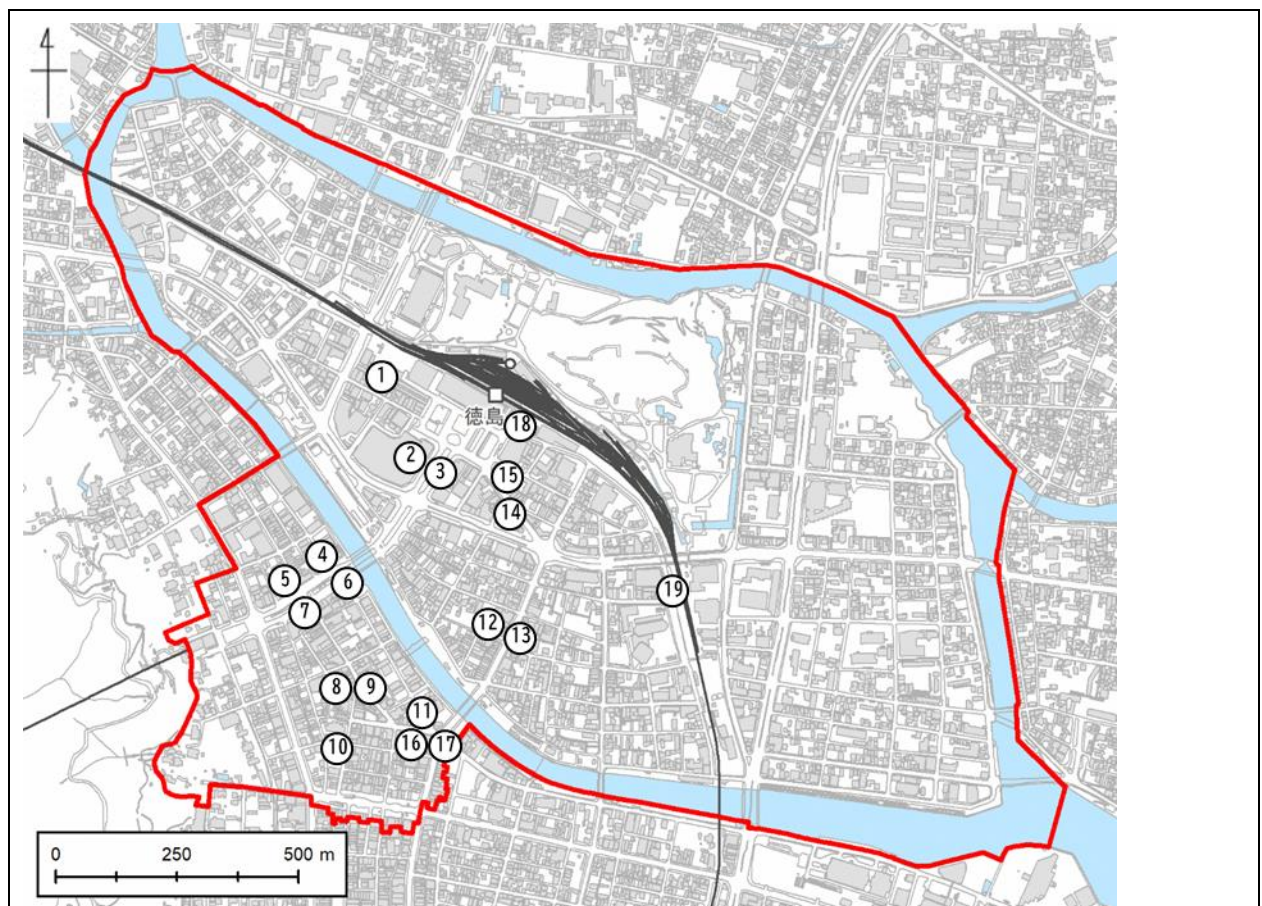
年	(人)
R2	15,697 (基準年値)
R3	15,335
R4	14,416
R5	
R6	
R7	
R8	20,807 (目標値)

※調査方法：スマートフォンのGPS機能を活用したビッグデータ（4月1日から3月31日までの測定結果により算出されるまちなか歩行者通行量）を計測する

※調査月：毎年4月（前年度の平均値）

※調査主体：徳島市

※調査対象：調査地点（19地点）の歩行者通行量の平日・休日平均の合算



※ この地図は徳島市長の承認を得て、1/2500地形図を複製したものである（承認番号 令3徳島市指令都政12号）

(単位：人)

	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
1 ポッポ街	848	913				
2 元町西側	713	694				
3 元町東側	821	807				
4 新町橋西側	541	555				
5 西新町商店街	528	520				
6 新町橋南東側	567	582				
7 東新町1丁目	725	663				
8 東新町2丁目西側	488	481				
9 東新町2丁目東側	515	471				
10 籠屋町アーケード	1,022	932				
11 銀座商店街	726	674				
12 両国本町西側	1,269	1,135				
13 両国本町東側	1,352	1,217				
14 一番町南側	1,186	1,049				
15 一番町北側	1,210	1,095				
16 両国橋商店街西側	675	663				
17 両国橋商店街東側	718	657				
18 徳島駅東	946	858				
19 新ホール西	485	450				
合計	15,335	14,416				

〈分析内容〉

まちなか歩行者通行量（平日・休日平均）の増加に向けた各事業の取組は概ね予定どおり進められているが、令和3年度の15,335人に対し、令和4年度の最新値は14,416人（▲6%）と減少傾向が続いている。

調査地点ごとに見てみると、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている「籠屋街アーケード」や「両国本町（東西）」に人の流れが戻っていないことに加え、これまで大きく変動のなかった徳島駅から市役所方面にあたる「一番町（南北）」、「徳島駅東」、「新ホール西」の歩行者通行量が大きく減少しており、このことは、新ホール整備に伴う既存建築物の除却が進み、市役所東側に立地していた集客施設（徳島県青少年センター、徳島市中央公民館）が令和3年度12月から3月末にかけて休館や廃止となったことによる影響が大きいものと考えられる。

一方で、アミコビル周辺の「ポッポ街」と「新町橋（東西）」は増加傾向に転じており、「元町（東西）」や「西新町商店街」についても概ね現状値を保つことができている。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. ひょうたん島周遊船運航事業（徳島市）

事業実施期間	平成 8 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地を流れる新町川と助任川に囲まれた「ひょうたん島」の周囲約 6km を巡る周遊船の定期運航を行うとともに、夏季に屋形船でのイベントを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年 4 月～令和 9 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】51 人増加 【最新値】7 人減少 新型コロナウイルスの影響が残っていた令和 4 年度の乗船者数は 47,374 人であり、コロナ前（令和元年度）の乗船者数 48,737 人を下回っていたが、8 月～3 月の乗船者数を比較すると、令和 4 年度は 29,956 人であり、コロナ前（令和元年度）の 28,950 人を 1,006 人（3%）上回っており、回復傾向にある。
事業の今後について	これまで、期間や運航時間を限定して、周遊船の運航を委託していたが、事業者が柔軟に運航体制を構築し、年間を通して、水都とくしまの魅力を観光客に提供できるよう事業を進め、利用者数を増やすことにより、水辺空間を回遊する歩行者通行量の増加を図る。

②. 中心市街地出店支援事業（中心市街地の空き店舗への出店者（徳島市））

事業実施期間	令和 2 年度～【実施中】
事業概要	そごう徳島店の閉店に伴う駅前のにぎわい喪失を防ぐため、中心市街地の空き店舗に出店する場合に必要な改装費等に係る補助金を支出する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】500 人増加 【最新値】100 人増加 当事業利用による新規出店が令和 4 年度は 7 件であり、ほぼ想定どおりの利用があったと考えている。 制度の周知等により、制度自体の認知度が高まっていると感じるが、新型コロナウイルス感染症の影響もあってか、事業の対象である業種の出店数が伸び悩む傾向が見られ、今後の情勢も不透明な状況である。また、工事を始めてから制度を知ったとの意見もあり、さらなる周知方法の検討が必要と感じている。
事業の今後について	対象地区内で出店を検討している事業者への周知をいかにして行うかが課題である。 重ねてホームページ等で周知を行うほか、中心市街地商店街で直接制度の説明を行う機会を設けるなど、制度の周知徹底を行う。

	また、他事業との整合性をとりながら、業種や対象エリアの拡大も検討し、新規出店件数の増加及び対象地区周辺の魅力向上を図ることにより、商店街等を訪れる歩行者通行量の増加を目指す。
--	---

③. フィールドアトラクション発掘・発信事業（徳島都市開発株式会社）

事業実施期間	令和4年度～【未】
事業概要	中心市街地をテーマパークのように「遊びに行く場所」として活性化するため、地域資源の磨き上げを通じた着地型観光商品の造成やまち歩きイベントの実施に取り組む。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】110人増加 当該事業は、実施主体である徳島都市開発株式会社が令和4年度中に事業計画を取りまとめ、開始する予定であったが、同社が、本事業と同じく当該認定基本計画に位置付けて実施している「徳島駅前再生事業」に係るテナント誘致などに人と時間を要したため、本事業の実施に至らなかった。
事業の今後について	事業の実施手法やスケジュールを改めて検討する。

④. 徳島文化芸術ホール（仮称）整備事業（徳島県、徳島市）

事業実施期間	令和2年度～令和8年度【実施中】
事業概要	中心市街地のランドマークとなる新たな文化ホールを県市協調により整備するとともに、既存建築物・地下埋設物除却等の土地整備を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）（国土交通省）（令和4年度～令和8年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】1,373人増加 当該事業は、当初の予定通りに進捗しており、令和8年度中のホール開館を予定している。市と県の役割分担については、県市協調新ホール整備に関する基本協定に基づき進めており、令和4年度については、県はホールの実施設計に着手し、市は徳島跨線橋の撤去、中央公民館及び社会福祉センターの解体及び街路樹管理事務所解体工事設計業務に着手した。
事業の今後について	引き続き、既存建築物の解体やホール整備を進め、新たなランドマーク施設を予定通り開館し、ホールを訪れる人の流れを生み出すことにより、歩行者通行量の増加を図る。

⑤. 徳島駅前再生事業（徳島市）

事業実施期間	令和2年度～令和5年度【実施中】 [認定基本計画：令和2年度～令和4年度]
事業概要	JR 徳島駅前のアミコビルについて、テナント誘致に向けた施設改修などに対する補助金を支出する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）（国土交通省）（令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】2,115人増加 【最新値】1,456人増加 当事業で支援しているアミコビル改修は、新型コロナウイルス感染症の影響による建築資材の納期遅延や整備内容の見直し等のため、工事着手が遅れ、令和5年度に工事が完了する見込みとなった。アミコビル年間来館者数は、最新値では2,456千人となっており、新型コロナウイルス感染症拡大による影響下においても、改修が完了したフロアでは、新規テナント出店が着実に進んだことから、前年度から大幅に増加しており、目標値を設定した際の見込み（事業目標値）2,115人増加の達成に向け、順調に推移していると考えられる。
事業の今後について	工事の進捗管理に努めるとともに改修工事と並行したテナント誘致を促進させ、令和5年春に予定しているグランドオープンに加え、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後に回復が見込まれる人の流れを取り込むことで、まちなかを回遊する歩行者通行量の増加を目指す。

⑥. 広域観光案内ステーションの運営（徳島市）

事業実施期間	平成24年度～【実施中】
事業概要	アミコビルにおいて、着地型観光の促進を図る拠点となる「広域観光案内ステーション」を運営する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】164人増加 【最新値】41人減少 当該事業は、これまでアミコビル地下1階で運営を行っていたが、令和4年7月31日に、アミコビル東側外向き1階に移転し、まちのインフォメーションとしての機能強化を行った。目標値設定時は、パンフレットを持ち帰っただけの方も来館者数に含めて集計していたが、移転後は、来館者の集計方法を「観光案内・宿泊案内」を行った方のみに変更したため、事業目標値の45千人に対し、最新値は7.5千人となっているが、「観光案内・宿泊案内」を行った来館者数で比較すると、移転後の来館者数は前年の4.4千人を大きく

	<p>く上回る7.5人(170%)となっており、移転により、来館者数は増加していると考えられる。</p>
<p>事業の今後について</p>	<p>アミコビル東側外向き1階という立地を生かし、光で模様を照らしだせるゴボ照明を建物入口に設置することで、夕方や夜間に当ステーションを見つけやすくするとともに新たな観光スポットとなるよう、集客、にぎわいの創出を図ることにより、まちなかを回遊する歩行者通行量の増加を目指す。</p>

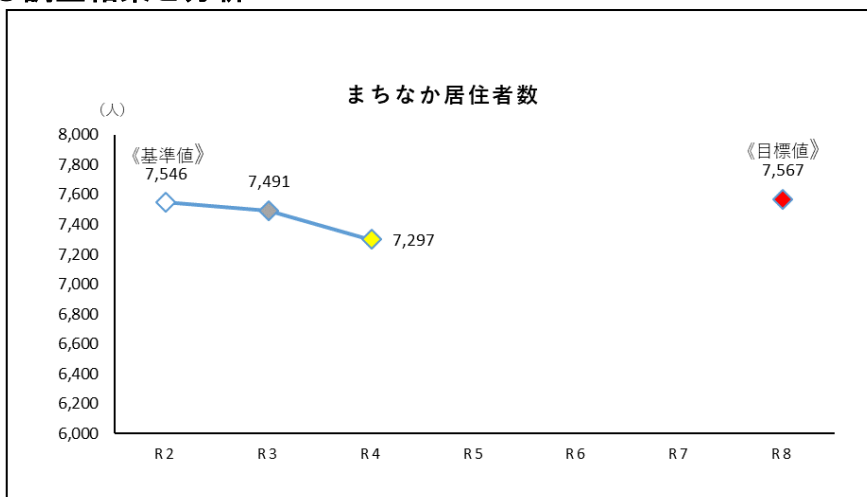
●目標達成の見通し及び今後の対策

一部、実施に至らなかった事業があるものの、その他の事業は概ね順調に進捗しており、特に、ひょうたん島周遊船運航事業はコロナ前を上回る乗船者数に回復しつつあるなど、今後、ポストコロナに向けた人の流れが加速し、中心市街地を訪れる観光客の増加も期待されることから、継続して事業を実施していくことで、目標の達成は可能であると思われる。

今後は、ひょうたん島川の駅ネットワーク構想の推進など、本市ならではの魅力を生かした取組のより一層の充実を図るとともに、集客の核となる徳島文化芸術ホール（仮称）整備事業を着実に進め、中心市街地の魅力向上を図るとともに、訪れた人がまちなかに繰り出し、歩いて楽しめる場所となるよう、各ランドマーク施設や商店街などの回遊性を高めることで、中心市街地内全体に効果を波及させる。

(3) 「まちなか居住者数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 80～P. 81 参照

●調査結果と分析



年	(人)
R2	7,546 (基準年値)
R3	7,491
R4	7,297
R5	
R6	
R7	
R8	7,567 (目標値)

※調査方法：毎年10月1日時点の徳島市住民基本台帳人口を集計する

※調査月：12月

※調査主体：徳島市

※調査対象：中心市街地（内町地区・新町地区）の徳島市住民基本台帳人口

(単位：人)

	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
内町地区	5,571	5,448				
うち14歳以下	606	590				
うち15～64歳	3,081	2,995				
うち65歳以上	1,884	1,863				
新町地区	1,920	1,849				
うち14歳以下	140	130				
うち15～64歳	1,005	977				
うち65歳以上	775	742				
合計	7,491	7,297				

〈分析内容〉

まちなか居住者数の増加に向けた各事業の取組は概ね予定どおり進められているが、まちなか居住者数は未だ減少傾向にある。

地区別年齢区分別に見ると、内町地区の生産年齢人口（15～64歳）の減少数が▲86人と最も多く、全体（▲194人）の44%となっている。一方で、14歳以下の子どもや65歳以上の高齢者の減少数は全体の10%前後となっており、転勤などによる単身世帯の移動が多いものと考えられる。また、内町地区、新町地区ともに居住者数は減少しているが、65歳以上の高齢化率が高い新町地区の方が減少率は大きくなっており、新町西地区市街地再開発事業の着実な実施のほか、若い世代の移住や転入に繋がるような、魅力発信やソフト事業の追加も検討する必要があると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 移住促進事業（徳島市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	移住交流支援センターの運営や移住希望者に対するPR等を実施するとともに、ワーキングホリデーや本市の地域資源を生かした移住促進策を展開する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和4年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】本事業による移住者数：19人（計画期間の累計） 【最新値】本事業による移住者数：42人（計画期間の累計） 当該事業については、従来のホームページ等を使った広報に加え、令和4年度から移住交流支援センターの公式SNSの運用や、公式LINEページを開設するなど、積極的な情報発信を行ったことにより、同センターに寄せられる相談件数が対前年の約2倍となっており、移住者数も目標値を大きく上回っている。また、ふるさとワーキングホリデーやオンライン移住体験ツアーなどの事業を継続するとともに、移住者交流会など新規の取組にも積極的に取り組んでいる。
事業の今後について	移住促進事業は現在順調に進んでいるが、新型コロナウイルス感染症の影響が限定的になるに伴い、地方回帰の流れの方向性は不透明である。社会情勢を注視しながら、積極的な移住促進施策を展開し、さらなる中心市街地への移住者増を図る。

②. 新町西地区市街地再開発事業（新町西地区市街地再開発組合（徳島市））

事業実施期間	令和3年度～令和8年度【実施中】
事業概要	新町西地区において取り組む、集合住宅・宿泊施設・商業施設・川の駅等を整備する新たな再開発事業に対して補助金を支出する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和4年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】390人 当該事業は、令和8年度の事業完了に向けて、全体スケジュールとしては、おおむね当初の計画どおりに進捗しており、令和4年度については、再開発事業に係る都市計画決定を行った。
事業の今後について	今後、事業計画変更及び権利変換計画の認可を経て、当該地区の解体除却工事へと進んでいく予定である。

●目標達成の見通し及び今後の対策

各事業は概ね順調に進捗しており、特に移住促進事業については、新型コロナウイルス感染症の影響による地方回帰の流れの後押しもあり、目標値を大きく上回る実績（令和4年度：42人）となっているが、「まちなか居住者数」については、未だ減少傾向にある。

今後は、目標の達成に向けて、新町西地区市街地再開発事業を着実に進めることはもとより、移住促進事業のほか、中心市街地の空き家対策など、早期に効果の発現が期待できる新たなソフト事業の追加を検討するとともに、特に若い世代に働きかける取組の追加・拡充を検討していくことが必要であると考えられる。